

「認知症」とはどんな病気？

「認知症」とは、さまざまな原因で脳の細胞が死んでしまったり、働きが悪くなつたために、様々な症状が出て生活に支障が出ている状態を指す総称です。

具体的には次のようなものがあります。

《認 知 症》

アルツハイマー型

脳の細胞がゆっくりと機能しなくなる進行性の病気です。脳にたんぱく質の一種が蓄積することで引き起こされますが、詳しい仕組みはまだ解明されていません。現在ではそれを遅らせる薬があるのみで、完全に治すことはできません。若い方でも発症する可能性があります。

認知症全体の5～6割程度を占めます。

脳血管性

脳梗塞などで脳の血管が詰まって脳細胞が死んだり、神経のネットワークが壊れることで症状がおきます。認知症全体の2割程度を占めます。

その他

(レビー小体型)

脳の細胞が変質して症状が起こるアルツハイマー型とよく似た症状などが特徴です。認知症全体の2割程度を占めます。

認知症ではさまざまな症状が現れます。これらは脳が死んだりすることでおこる「中核症状」と、これが原因で起こってくる「周辺症状」があります。

脳の細胞が死んでおこる症状

中核症状

- ・新しいことが覚えられない
- ・すぐに忘れてしまう
- ・季節や場所などが分からなくなる
- ・考えるスピードが遅くなる
- ・同時に複数のことができなくなる

など

中核症状の治療は困難です。

本人の性格・素質

周りの環境
その時の心理状態

心や環境の変化によっておこる症状

周辺症状

- ・何事も面倒になる
- ・自分の状態を悲観してうつ状態になる
- ・実際には無いものを見聞きしたりする
- ・道に迷って帰れなくなる
- ・トイレを失敗する

など

「周辺症状」は、周りの人の手助けで改善され、地域で生活し続けることも可能です。